

村人を助けたい

江戸時代、用水路の開削やため池築造に中心的な役割を果たした庄屋がいました。暮らしに困窮する村人を助けたいという思いからでした。香川県綾川町の久保太郎右衛門と愛媛県宇和島市の太宰遊淵（だざいゆうえん）をご紹介します。

■萱原用水と久保太郎右衛門（香川県綾川町）

萱原村（現綾川町）周辺は水利の便が悪く、用水確保に苦勞した地域です。萱原村の庄屋・久保太郎右衛門は村人の苦しみを救済しようと自ら測量して、山田村（現綾川町）の正末で綾川から取水して大羽茂池に至る用水路の計画を立て、高松藩庁に重ねて願い出ました。元禄 16 年（1703）に計画のうち下流の一部について許可が出たため工事を完成させたものの、十分な成果は得られませんでした。このため、太郎右衛門は藩主に直訴して元の計画を認めるよう嘆願したところ、捕らわれて投獄されました。獄中でも工事の許可を訴え続け、妻や村人も藩家老に釈放を懇願した結果、太郎右衛門は釈放され、宝永 4 年（1707）に用水路の計画に許可が出ました。工事はこの年のうちに完成し、萱原用水の完成によって村々は綾川の恵みを受けることになりました。<綾南町誌編纂委員会編「綾南町誌」1998 年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年など>



大羽茂池

copyright=2013 西園災害アーカイブス



久保太郎右衛門影徳碑



(地理院地図に加筆)

■中山池と太宰遊淵（愛媛県宇和島市）

水不足のため年貢の完納に苦しむ村人を見て、黒井地村（現宇和島市）の庄屋・太宰遊淵はため池の築造を計画しました。遊淵は讃岐の満濃池を調査するなどして、黒井地村の地形から金山と北山に挟まれた谷間（現在地）を選定し、村人の賛同を得て、宇和島藩庁に計画を願い出て許可されました。工事は寛永 4 年（1627）に始まり、延べ 4 万 5 千人の労役を費やし、途中から宇和島藩士の援助を受けて寛永 7 年に完成しました。伝説によると、遊淵は中山池の横の山（現在太宰遊淵の墓のある辺り）に座して工事の采配に当たり、鉦を打ち鳴らしながら、お経を唱えて工事の完成を祈り、完成とともに亡くなったと伝えられています。<愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年など>



中山池

copyright=2013 西園災害アーカイブス



太宰遊淵の墓

copyright=2013 西園災害アーカイブス



(地理院地図に加筆)